

5月1日(月)
晴・曇・一時雨起床5:30/7:00 ~ リフト7:30/7:45 ~ 1800m地点~月山頂上 9:18 ~ 1800m
地点 9:30 ~ 駐車場 10:45⇒入浴 13:30⇒燧枝岐村・御池小屋 19:15

参加者

後藤隆徳	53	初体験の中頂上を極めて良かった	体力・技術	③
加藤秀子	51	重くて滑りずらかったが、それなりに	展望	⑥

第一日目に世話になった民宿の駐車場に車を移動し、朝食を済ませトイレを拝借。心配していた天気も午前中は持ちそうだと再びスキー場に戻りシール登山を開始。だが、天候を考慮して動き出したリフトを利用する。降り立つ頃、陽が射しはじめ好天の兆しに見えたが、牛首から月山の方はやはりガスで見えない。

グズグズの腐れ雪は重く、鉛が足元に絡まっているようだ。しかしCLはものともせず早い。牛首を越えるとガスで視界が悪く、1800mの地点に板をデポし、地形図とコンパスで方向を定めながら《つぼ足》で頂上を目指す。急な傾斜を慎重に登り、ホンの一部しか見えない鍛冶月光

と鍛冶小屋を迷いなく通過し、1980mの稜線に着いた。先客の二人のうち一人は、探したがガスで頂上が分からなかったと下山。もう一人も諦めて座っていた。その人達にCLは、自分はもう少し探してみるからと言い残し、高度計を駆使しながらとうとう1984mの月山神社を祭ってある頂上を探しあてた。社の屋根の千木が僅かにのぞいている。やっぱりその道のプロだった。ガスと風に長居は無用と直ぐ下山。デポ地まで戻ると、山スキーヤーが7~8人登ってきた。そしてガスの中へと消えていった。

滑降を開始する。湿った雪は重くて滑りづらい。其れでもCLの描いたシュプールを反対に回り込み8の字を雪面に刻んで楽しんだ。牛首から姥ヶ岳への登山に《あられ》混じりの雨が降り始め、潔くゲレンデを下り駐車場へ。月山志津温泉《えびすや》で一風呂浴びる。ここは以前、夏の東北ツアーで月山の帰り、やっぱり寄った懐かしい風呂である。貸し切り状態の湯船にドブプリ浸かり疲れを取った後、燧ヶ岳へ向かう為出発。

東北自動車道から郡山JCTを経て磐越自動車道に入り、会津若松ICから会津鉄道沿いにローカル線を走る。変化に富んだ町並みに、目線はキョロキョロ。奥深い山合いを車はひたすら走る。やっと燧枝岐村の七入りに着いたのは、夜の帳もおおりた頃だった。七入りのゲートは閉めてあり、《通行止め》の看板があったが、CLが事前に御池まで行ける確認をしてあったので、かまわず通過する。御池小屋は明かりが灯り、既に営業しているのか人の気配がした。遅い夕食をとり、明日は3時起床と早々に休む。

